



第二十八回

仙台青葉能

喜多流 能

弱法師 舞入

和泉流 狂言

見物左衛門 花見

喜多流 能

吉野 静

佐々木多門

野村万作

友枝昭世



「見物左衛門 花見」
万作の会提供



「弱法師」
友枝昭世 所演



「吉野静」
佐々木多門 所演

とき 2026年5月16日(土)

開演 13:30 開場 12:45

ところ 電力ホール(仙台市青葉区一番町3丁目7-1)

入場料 S席 11,000円 A席 8,500円 B席 6,500円 学生席 2,500円 (全席指定・各消費税込)

一般発売 2月12日(木) 10:00~

※未就学児入場不可。 ※学生席の販売は河北チケットセンターのみ。公演当日25歳以下が対象。公演当日学生証をご持参ください。
※車椅子で鑑賞をご希望のお客様は河北チケットセンターまでお問い合わせください。 ※公演中止の場合を除き、お客様都合による払い戻しはできません。

- プレイガイド ●河北チケットセンター TEL.022-211-1189(平日10:00~14:00) ●藤崎 ●チケットぴあ(Pコード540-127)
●ローソンチケット(Lコード22154) ●仙台市市民文化事業団 公式サイト<https://ssbj.jp/ticket/> ●日立システムズホール仙台
●仙台銀行ホール イズミティ21 ●仙台市市民文化事業団 総務課 TEL.022-727-1875(平日9:30~17:00)

お問い合わせ 河北新報社事業部 TEL.022-211-1332(平日10:00~17:00)

■主催/仙台青葉能の会、(公財)仙台市市民文化事業団、河北新報社 ■共催/電力ホール

◆協力/仙台市博物館、中尊寺、(公財)瑞鳳殿、NHK 仙台放送局、伊達家伯(かはく)記念會、白石市古典芸能伝承の館「碧水園」

◆後援/宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市能楽振興協会、松井建設(株)東北支店

※伊達家家紋使用許可(8002)



※伊達家家紋使用許可(8002)

第二十八回

能 青葉 仙 台

献香之儀

仙台伊達家十八代当主

伊達

泰宗

開演 午後一時三十分

喜多流

能 弱法師

よろぼし

シテ・俊徳丸 友枝 昭世

舞入

アイ・供人 野村 裕基

ワキ・高安通俊 宝生 常三

後見

中村 邦生
友枝 真也

地謡

谷 友矩
内田 成信
金子敬一郎
大島 輝久
香川 靖嗣
友枝 雄人
栗谷 明生
大村 定
香川 靖嗣
友枝 雄人

大鼓 國川 純
小鼓 鶴澤洋太郎

笛 松田 弘之

一時四十分

和泉流

狂言

見物左衛門

けんぶつざえもん

花見

見物左衛門 野村 万作

地謡

野村 裕基
中村 修一
内藤 連

後見 破石 澄元

——休憩 二十分——

三時十分

喜多流

能 吉野静

よしのしずか

シテ・静 佐々木多門

アイ・吉野の衆徒 中村 修一
アイ・吉野の衆徒 内藤 連

ワキ・佐藤忠信 宝生 常三

後見

塩津 哲生
大島 輝久

地謡

佐藤 陽
塩津 圭介
友枝 真也
佐藤 寛泰
金子敬一郎
狩野 了一
長島 茂
内田 成信

大鼓 國川 純
小鼓 鶴澤洋太郎

笛 松田 弘之

終演予定 午後四時四十五分頃

能「弱法師舞入」(よろぼしまいり)

河内国(大阪府東部)の住人・高安通俊はある者の讒言をいれて、息子の俊徳丸を家から追放してしまつたことを悔い、四天王寺において七日間の修行を行う。盲目の足取りから弱法師と呼ばれている俊徳丸が、修行を受けようと寺の境内へやってくる。

時節は春。通俊から施しを受け取る俊徳丸の袂にも梅の花が散りかかり、袖から芳しく香りが漂うのどかな有様は、四天王寺を建立された聖徳太子を讃仰する法悦の心ともしみじみ通じてゆくのだらう。

通俊はこの弱法師こそ我が子であると気づく。この日はちょうど彼岸の中日。四天王寺の西門の「石の鳥居」の真中を通過する落日に向かって祈る「日想観」の時刻を迎える。弱法師は極楽の東門へと続く入り口を拝み、さらに難波の浦の景観を心の眼で眺め見渡してゆく。しかし盲目の哀しさ、行き逢う人々にばかり倒れ伏してしまう。

やがて夜となり、通俊と俊徳丸は名乗りを果たし、高安の里へとめでたく帰ってゆく。

狂言「見物左衛門花見」(けんぶつざえもんはなみ)

季節は桜の花盛り。見物左衛門という男が友人を誘い、京都・清水の地主神社へ花見に行こうとするが、友人は既に出かけたというので一人で出かける。途中、酒宴に紛れ込んだり、謡や舞を楽しみながら、清水・大森・嵐山と見て廻り……

一曲を通してシテが一人で演じる珍しい狂言。桜の作り物を出すことも無く、演者が身ひとつで表現する素手の芸の真骨頂が期待される。

能「吉野静」(よしのしずか)

頼朝と義経の兄弟の間が不和となつて、義経は都から落ちて吉野の山中に潜伏。しかし、頼朝にしていた吉野山の僧や衆徒の人々の心変わりによつて、この山を逃れ出なければならなくなる。忠臣・佐藤忠信は、義経の後方を守る「防ぎ矢」を仰せつかり、静御前と二人で吉野山の人々を欺く策をめぐらすことにする。

忠信は、都道者(都からの参拜者)に身を替えて、頼朝と義経との和解のうわさを流したり、義経の武勇を語ったりし追撃の矛先を鈍らせるようにする。静御前も白拍子の舞の装束を着て人々の前に現れ、義経の忠節の心を説きつつ法楽の舞を舞い、時を稼ぐようにして義経をなるべく遠くまで逃そうとする。その健気な美しい静御前の舞によつて人々は魅了され、また義経主従の武略を恐れて追う者はなく、ついに義経は無事に吉野山から落ち延びることが出来たのであった。